

2018

1/1

January
No.294

市報やまぐち

特集 明治維新 150 年記念特集… 2

市政トピックス…12

山口県央連携都市圏域の愛称募集…12

イラストでわかる維新志士…13

新山口駅北地区拠点施設整備…14



明治維新150年記念特集

志の光

謹賀
新年



山口市菜香亭

志のリレー

明治維新150年記念特集

今から150年前

近代日本を築くために外交に努力した井上馨
西洋の工業技術を日本に取り入れた山尾庸三
軍政の近代化を成し遂げた大村益次郎
山口市は明治維新の策源地として
日本を牽引していった多くの志士たちを育んできました。

あれから150年

現在も、山口市の風土は志士たちの志を受け継ぎ
さまざまな変革の策源地であり続け
現代の志士とも言える人々を育んでいます。
今回の特集は、
幕末明治から今につながれた「志のリレー」をご紹介します。

☎ 広報広聴課 083-934-2753



大村益次郎（鑄銭司郷土館）、山尾庸三（二島中学校）、井上馨（井上公園）

山口市議会議長 重見秀和

市民の皆様には、輝かしい新春を健やかにお迎えのことと心からお喜び申し上げます。
また、平素から市勢の発展と議会運営に対しまして、御理解、御協力を賜り、深く感謝申し上げます。
さて、市議会におきましては、「山口市議会基本条例」に掲げる理念に基づき、積極的に政策立案や政策提言を行うとともに、市民に開かれた議会を目指し、取り組みを進めております。
昨年は、山口市新本庁舎の整備に関しまして、新本庁舎や各総合支所、地域交流センターの役割や機能、権限等について調査、検討する特別委員会を設置し、市から整備の方向性が示される中、協議を進め、委員会としての意見を取りまとめた提言書を市長に提出いたしました。
また、次代を担う子どもたちが、健やかに育つことのできる地域社会の実現を目的に、「山口市子ども・子育て条例」を議員提案により制定いたしました。本条例の施行により、子育てや教育に関する政策課題を、行政だけでなく市民の皆様との一体的な取り組みによって解決できる仕組みを構築し、全ての子どもが笑顔で喜びに満ち、希望あふれる山口市の実現を目指すものでございます。
今後も、議会の役割と責任の重さを自覚し、市民の皆様のお意見等を十分にお聞かせいただきながら、「住んでみたい、住み続けたい」と思えるまちづくりに全力を尽くしてまいります。
新しい年が市民の皆様にとりまして幸せで実り多く、大いなる飛躍の年になりますよう心から祈念いたしまして、新年のごあいさついたします。

山口市長 渡辺純忠

清々しい新春を迎え、皆様に謹んで新年のお喜びを申し上げます。
本市では、平成30年度から、第二次山口市総合計画に基づくまちづくりの取り組みをスタートさせ、将来都市像に、「豊かな暮らし 交流と創造のまち 山口 ～これが私のふるさとだ～」を掲げまして、8つの重点プロジェクトを展開し、多様な特長を有する本市の21地域が、その特長を高め合い、更なる価値創造や経済循環が生まれる「好影響・好循環」の対流型のまちづくりを進めることとしております。
こうした中で、本年を「オール山口の発展 元年」と位置付けまして、農山村も都市部も発展する、山口都市核も小郡都市核も発展する、山口市全体の発展を実現していくための挑戦をスタートさせ、「住んで良かった これからも住み続けたい山口市」と心から思える定住実現のまちづくりに邁進してまいります。
山口都市核では、山口県ナンバーワンの広域観光拠点づくりや中心市街地の活性化を進め、小郡都市核では、山口県ナンバーワンのビジネス街の形成を進めてまいります。また、総合支所の機能強化を進め、地域のことは地域で解決する山口らしい地域内分権の確立を図ってまいります。
さらに、本年は、明治維新150年にあたる年でもございます。歴史を体感できる都市空間の形成や山口ゆめ花博等の記念事業により、明治維新の策源地である本市の魅力に磨きをかけ、新たな交流・対流を促進してまいります。
本年が皆様にとりまして、健やかで幸多い年となりますことを祈念いたしまして、新年のごあいさついたします。

藩庁は山口へ。共に学ぶ姿勢を受け継ぐ

未来をつくる人を育てる YCAM

近代日本の劇的な産業化に貢献した長州五傑。彼らの根底にあったのは私塾「松下村塾」での教えや、そこで学んだ門下生達の遺志の連鎖でした。そして藩庁は萩から山口へ。政治の中心となったことで、さまざまな分野に影響を与えました。共に学び合う私塾の教育システムは、現代では山口情報芸術センター「YCAM」の研究・開発スタイルに受け継がれ、教育の分野にも新たな風を吹き込んでいます。

自力で育つ教育システム今も

吉田松陰の松下村塾は、幕末から明治期の日本を主導した人材を

多く輩出したことは言うまでもありません。久坂玄瑞、木戸孝允、高杉晋作、伊藤博文、山縣有朋らは、吉田松陰の遺志を継ぎ、近代日本

昨年 11 月に YCAM で開催された「未来の山口の運動会」。メディア・テクノロジーを応用して発案された運動会に参加する子どもたち。



幕末を陰で支えた仕事人

森寛斎 (1814 ~ 1894) をご存じでしょうか。萩出身ですが、日本画家として有名で、大阪や京都で円山派に学び、師の養子となりました。そんな森ですが、実は本市にある円龍寺 (三和町) の横に住んでいた時期もあるそうです。長州の密偵として京都・萩間を盛んに行き来するなど、表向きには画家として、ある時は志士として国事に奔走しました。政治ばかりが注目される幕末・明治ですが、芸術の面においてもおもしろい史実が残っています。



森寛斎が同郷の志士、品川弥二郎から依頼され、射撃的として描いた「人体的異人図」(京都大学附属図書館所蔵)

寛斎が住んだすぐ近くの YCAM で、今や世界でも知られる最先端のメディア・アートが見られるなんてすごい!



国家の礎を築きました。鑄銭司出身の大村益次郎も、米の普門寺で私塾を開き、多くの門人たちを育てるなど、教育の分野で多大な影響を与えています。あれから 150 年。YCAM が現代の松下村塾とも言える教育を展開しています。

YCAM の教育プログラム

YCAM では、ここでしか生み出せないオリジナルのメディア・アート作品を制作、発表しています。また、好奇心や想像力を刺激



YCAM が鑄銭司小学校で行った、テクノロジーを使って新しいスポーツをつくる授業の様子。子ども達の鋭い反応や質問には、大人も刺激を受ける。

する教育プログラムを次々に提供し、多くの人が学んでいます。「YCAM のワークショップは、読解力を身につけ、自立して鑑賞できる人を育てるのが目標。終わりを決めず、あえて疑問を残し、広がりをもたせて終わるようにしている」と専門職員の朴鈴子さんは YCAM の教育方針を話しました。

他者からの刺激が 目指したい道のきっかけに

YCAM が開館当初から行っている教育普及活動に影響を受け、自ら創意工夫をしている学生がいました。

山口高等学校 1 年生の吉岡潤哉さんは、幼い頃から生物と工学の融合について興味を持ち、YCAM で行われるメディア・アートの展示やワークショップに参加しています。高校では化学・生物部に入り、ペットボトルロケットを遠くに飛ばすために乱気流を打ち消す研究や、生物がもつメカニズムを生活に役立つ機械に生かす研究をしています。「3 年前、ミニメーカーフェアに自作のボードゲームを出展した際、京都のプログラム会社の方からもっとこうしたらいいと助言してもらったり、レーザーカッター製作会社の社長さん

おさらい人物史 ~教育に奔走した人たち~

吉田松陰が認めた逸材 富永有隣 (陶・1821 ~ 1900)

吉田松陰と意気投合し、松下村塾で講師を務める。安政の大獄後は陶に帰り、秋穂二島や名田島で私塾を開き学問を教えた。小説家・国木田独歩の「富岡先生」は有隣をモデルにしたもの。



田布施町郷土館所蔵

維新の花を咲かせた万能人物 大村益次郎 (鑄銭司・1825 ~ 1869)

軍制の近代化など時代の転換を図った。教育者でもあり、優秀な人材を世に送り出した。司馬遼太郎の小説を元にした NHK の大河ドラマ「花神」でその生涯が描かれた。



文化財保護課所蔵

女子高等教育の開拓者 成瀬仁蔵 (吉敷・1858 ~ 1919)

同郷の澤山保羅や内海忠勝らの協力で日本女子大学 (現日本女子大学) を創設。女性の社会進出を描いた朝ドラ「あさが来た」でヒロインと共に女子大創立に奮闘する成瀬泉は成瀬がモデル。



日本女子大学所蔵

YCAM の教育普及。そこには決まったカリキュラムの授業では得られない「私塾」特有の双方向性がありました。松下村塾と同じように、何十年も先の日本を見据えることのできるリーダーと、有能な人材を生むためには、現代版松下村塾とも言える YCAM の可能性は大きいといえます。

から声をかけてもらったりした。YCAM に行くと、自分より人生経験が豊富な方からいろいろな発想を聞けて刺激になる」。YCAM で知り合うさまざまな人々と学び合うことで、工学への道が開かれ、「将来、工学デザイナーを目指すきっかけになった」と吉岡さんは語りました。



宇宙開発を担う人材を育てる衛星設計コンテストの最終審査に臨むための研究をしている吉岡潤哉さん (左・山口高校 1 年) と岡村真碧さん (右・山口高校 1 年)

藩庁は山口へ。山口市に受け継がれた

もろいDNA

幕末・明治期、山口からは多くのものづくりの父が輩出され、日本の近代化に貢献してきました。イギリスに留学した長州五傑で知られる山尾庸三は造船技術を、井上勝は鉄道技術を、遠藤謹助は造幣技術をそれぞれ学び、日本に持ち帰りました。

その背景には、江戸時代後期から東アジア諸国が植民地支配される中、とりわけ技術の近代化が欧米に対抗できる唯一の道であると考えられたことがあります。こうしたものづくりのDNAは、今にもつながっています。

2020年から始まる プログラミング教育

高度情報化がますます進展している国際社会。技術の知識に加え、論理的思考も重要視されています。文科省は、社会の変化の中で自分なりに試行錯誤し、新たな価値を生み出せる資質・能力を育むため、2020年から小学校の授業にプログラミング教育を盛り込むことを決めました。これに先駆け、平成28年、大殿小学校でプログラミング授業の実証研究が行われました。ここで児童にロボットを動かすプログラミングや基盤の製作を指導していたのは、ものづくり人材の育成を目的とした市民工房の「ファブラボ山口」



大殿小学校の児童が、パソコンでアニメーションやゲームのキャラクターを動かすための言語を操っている様子。

です。プログラミングとものづくりを通して、子ども達の論理的思考力や課題解決力を育てる取り組みとして、総務省「若年層に対するプログラミング教育の普及推進」事業に採択されて実現しました。

教え合い、学び合う

ファブラボ山口は、3Dプリンターなどの機械を使って、立体的な物を作ったり、機械を動かすプログラムを考えたり、自分が欲しい物で自分で作る場所です。松下村塾のように、自分たちの学んだ知識を教え合い、互いに学び合うなど、知識の共有や循環が生まれています。明治維新により産業技術が広まったように、ファブラボ山口の存在により、ものづくりの輪が着実に広がっています。

夢が形になる

子どもの頃の夢を実現しようとしている人がいます。本市出身で、経済産業省のロボット革命実現会議の構成委員になるなど、ロボット作りの第一線で活躍している吉崎航さんです。吉崎さんは、人型ロボットのための制御ソフトウェアを開発し、人型ロボット「クラタス」の動作を実現しました。ロボット同士で

対戦できる未来型のロボットです。子どもの頃、ロボットのアニメを見て憧れていた」と話す吉崎さんは、昨年、母校の大殿中学校で講演されました。吉崎さんが中学生だった当時、数学を教えていたという大殿中学校の原田隆校長は「山口市では吉崎さんのような世界的な技術者を今でも生んでいる。在校生も、ものづくりに興味をもって、世界に羽ばたいていってほしい」と期待を寄せていました。



吉崎さん（中央）が徳山高等専門学校在学中に仲間とロボットを製作している様子。現在は、ロボット専門企業を立ち上げ人型ロボットの制御に携わっている。

端の技術を取り入れて新たな価値を創造しようとする風土が、今もDNAとして山口に受け継がれています。

時代を動かした偉人の言葉

言葉は時に人を、国を、そして自分を動かします。本市出身の偉人達はどんな言葉を残したのでしょうか。

井上馨

「御維新は自分らの手で成就したから日本は最早革命の勇士を要しない。これからの者は、国の文化を高め、富強を諮らなくてはならない。政治家を志すよりも実業家になれ。それも技術に重きをおく事だ」

▶山口高等学校に通っていた鮎川義介に対して、大祖父井上がかけた言葉。鮎川は技術の発展した諸外国で先進技術を学んできました。

山尾庸三

「例え今日本に工業がなくとも、人を教育すれば、その人が工業を生み出すであろう」

▶工業が発達していなかった時代、自ら英国に渡り生きた機械となり工業を学び帰り、現在の東京大学工学部をつくり、技術者を養成していきました。

大村益次郎

「常識を発達させよ。見聞を広くしなければならぬ。小さな考へでは世に立てん」

▶激動の世の中で活躍するには、凝り固まった小さな考えを捨て、広い世界をよく見て、大きく進路をとることが大切だと説きました。

教科書に出て来る郷土の偉人がこんな言葉を残したんだ。



ファブラボ山口の様子。来場者は、3Dプリンターやレーザーカッターを使い、自分だけの「もの」を作っている。
ファブラボ山口
http://fablabiyamaguchi.com/

おさらい人物史 ～西洋の技術を取り入れた人たち～

長州五傑「工学の父」

山尾庸三（秋穂二島・1837～1917）

27歳でロンドンに留学し、工業技術を学んだ。明治政府で工学教育の土台を作った。グラスゴーの造船所で聾啞の方が手話で会話している姿に感動し、日本で聾啞の方の人材教育にも取り組んだ。



国立国会図書館蔵

長州五傑「鉄道の父」

井上勝（萩・1843～1910）

萩に生まれる。ロンドン留学時、日本にも列車が必要と考え、鉄道や鉱山を学んだ。帰国後、一時小鯖に滞在した後、政府に出仕、1871年に鉄道頭となり翌1872年、新橋－横浜間にわが国初の鉄道を開通させた。



国立国会図書館蔵

外交の父が育てた産業王

鮎川義介（大内・1880～1967）

大祖父井上馨が多大な影響を与えた。先見性に恵まれ、誰もやらないことに果敢に挑戦した。日産自動車、日立製作所などを傘下とした日産コンツェルンを創設。日本産業の近代化に尽力した。



国立国会図書館蔵

藩庁は山口へ。世界に学ぶマインド今も

グローバルな世界に生きる人

幕末、東アジアでは欧米列強による植民地化が拡大しており、その波は日本へも押し寄せていました。長州藩は来るべき新しい時代に対応できる人材を養成するため、井上馨を始めとする若き長州五傑をイギリスに密留学させました。これをきっかけに井上は、攘夷ではなく開国こそが日本の生きる道と悟り、近代日本を築く原動力となっていました。現代においても、海外から何かを学ぼうとしている人たちが多くいます。

世界に飛び出す一歩

本市では、国際社会で活躍できる人材を育成するため、子ども達を海外研修に派遣しています。昨年、中国の友好都市濟南市への研修に参加した田中凜さんと八鍬海さんは、山口大学教育学部附属山口中学校に通う中学3年生です。2人は「イメージに縛られるのではなく、自分の目で見るのが大切」と考え、研修に参加したといいます。研修を終えた八鍬さんは「同世代の中国の人を見て、もっと積極的に人とコミュニケーションを取らなければならぬ」と感じたそうです。また田中さんは「将来国境なき医師団として立場の弱い人をケアしたいと思っています。中国は英会話のレベルが高く、



昨年8月、済南市に研修に行った時の田中凜さん。ホストファミリーといっしょに近所の飲食店で食事をしたときの様子。

自分ももっと語学力を高めなければならぬ」と語学力の差を痛感したそうです。

派遣に同行した国際交流室の時室長は「多感な時期の海外経験はこれからの人生にとっても役に立つは

ず。近代日本を築き上げた先人達のように、この経験を何かの形で生かす一歩になれば」と話しました。

日本人のもつ優しさに気づかせてくれた海外経験

海外での生活経験を日本で生かそうとしている人もいます。地域おこし協力隊の奥山早紀さんは、英語を学ぶために世界中を旅した経験が今に生きていると言います。「海外の人たちは、見ず知らずの私を家に泊めてくれた。日本に住んでいる時、私の周りでは近所づきあいすらなかった。彼らの優しさに感動した」。この経験を日本で生かすため、帰国後、地域おこし協力隊に応募。現在は、秋穂のお遍路の存続のためPR活動をしています。「秋穂には昭和40年頃までお遍路宿があって、訪ねてきた方々を無料で泊めていたと知った。日本にも、海外で触れた暖かい文化があったんだと、気づくことができた」。奥山さんは、今後も、お遍路をきっかけに秋穂を盛り上げたいと話しました。



フランスの泊めてもらった家で、炊事の手伝いをする奥山さん（左）とオーナー（右）

世界トップの懐へ

スポーツの世界では、レベルの高い海外に挑み、技能を高めている人が少なくありません。卓球選手の石川佳純選手の活躍は皆さんご存じの通りです。しかし卓球界では、長い間世界をリードする中国の壁が厚く高く立ちはだかっています。ワール

ドツアーなど世界大会に出場し、レベルアップをはかっている石川選手ですが「中国の高いレベルでもまれて強くなりた」と、今年、最高峰の中国リーグへの参戦を決意しました。しかし、中国から突然の拒否。理由の一つに、昨年初参戦した平野美宇選手が世界トップの中国選手を破るまで急成長するなど、石川選手も中国を脅かす存在に成長することを恐れたのではないかと、とも言われています。

グローバル化が急速に拡大・進行するなかで、さまざまな難問が私たちの前に立ちはだかっています。そうした状況にあるからこそ、私たちは維新を成し遂げた過去を振り返り、150年前の偉人から学ぶことが数多くあるのではないのでしょうか。

昨年6月3日にドイツで行われた世界卓球選手権ドイツ大会混合ダブルス決勝で優勝した石川佳純、吉村真晴組 (dpa/時事通信フォト)



長州ファイブの学力

長州ファイブとは、遠く日本を離れ、イギリスに留学した井上馨ら5人を総称するイギリスでの呼び名です。さて、長州ファイブの学力はいかほどだったのでしょうか。山尾庸三が持ち帰った資料によると、山尾は分析化学の試験で4位という好成绩を上げ、優等証を授与されています。半年足らずで帰国を余儀なくされた井上馨や伊藤博文も、帰国後すぐに欧米諸国との外交に通訳として活躍するなど、彼らの語学力は相当高かったことがうかがえます。しかし、最初から英語を話せたわけではなく、イギリスへの渡航中、英語を少し話せた井上勝が先生となり船内で学んでいたそうです。ホームステイの初日、いきなり英語を話す5人に、受け入れた大学の教授も目を丸くしたとされています。



ロンドン大学には、5人の長州藩士を称える碑が建てられています。すごいですね。

おさらい人物史 ～日本の近代化を目指し奔走した人たち～

海外で能力を発揮した敏腕サムライ

河瀬真孝 (佐山・1840～1919)

幕長戦争で遊撃隊の総督として活躍。イタリアやイギリスに特命全権公使として赴任。工部美術学校彫刻科の講師としてイタリア人ヴァンチェンツォ・ラゲザを招いた。ラゲザは山尾庸三の銅像を造っている。



河瀬家所蔵

五傑より先に世界を見た男

杉孫七郎 (大内・1835～1920)

藩命により江戸幕府の遣欧使節団に加わり長州藩士として初めてヨーロッパ各国を視察。長州五傑の留学に影響を与えた。西洋の知識を持ち帰り、藩の意識改革に貢献した。また、書にも優れていた。



県立図書館蔵
「幕末維新 2010 アーカイブズガイド」 出版

長州五傑「外交の父」

井上馨 (湯田・1836～1915)

29歳の時に伊藤博文らとイギリスに密留学。外国との戦争を止めるために帰国。講和条約締結にも尽力した。日本の初代外務大臣など、要職を歴任。地租改正などで財政の健全化を図り、外交や条約改正に尽力した。



国立国会図書館蔵

150年前に学び、そして未来へ

山口市の地から

明治改元から150年。今もなお、山口市はさまざまなジャンルで活躍する人材を輩出しています。アイドルグループで頑張っている山口県出身の3人が、郷土史家松前了嗣さんの案内で市内の幕末・明治維新スポットを巡った後、湯田温泉の井上公園にある何遠亭で、郷土の偉人たちに思いを馳せました。

瀧野 松前さん、今回は山口の幕末・明治維新について深く知ることができて楽しかったです。
松前 そりゃあえかった。ところで、この建物は何か知っちゃる？

下尾 あそこに銅像がある長州フアイブの一人、井上馨さんに関係がありそうですね。
松前 そうそう。この建物は、幕末に京都から来た公家、三条実美



まつまえ・りょうじ 郷土史家。幕末・明治維新関連の講演や執筆活動に積極的に取り組んでいる。

の住居となった井上邸に増築された、何遠亭という建物の間取りを参考に造られたものなんよ。

瀧野 井上さんは「外交の父」と言われていますよね。そんな偉い人がここ湯田温泉に住んでいたなんて、とても感慨深いです。

岩田 それにしても、どうして外交の父と呼ばれているんですか？

松前 馨は維新後、明治新政府の外国事務掛や外務卿を務め、内閣制度ができると初代外務大臣となって日本の近代化に大きく貢献しちよったからね。幕末に伊藤博文、山尾庸三、井上勝遠藤謹助たちとイギリスに密留学して西洋の最新技術や考え方を学んだ。そんな経験が生かされたんじゃないかね。

下尾 井上さんがいなかったら、日本の近代化はもっと遅れていたかもしれないね。

岩田 長州フアイブには他にも「〇〇の父」と言われる人がいますよね。

松前 「工学の父」と呼ばれちよるのが、秋穂二島出身の山尾庸三。彼はイギリスのグラスゴーで造船の技術を学んで日本に持ち帰った人。庸三のおかげで日本の工業は飛躍的に進歩したんよ。
下尾 それにしても、あの時代に海外で勉強して、英語まで話せるようになるなんてすごいですよね。

岩田 菜香亭に行つて、たくさん の扁額を見ましたが、書かれた人の事を知れば知るほど、山口ってすごいところなんだなと、郷土を誇りに思えるようになりました。
下尾 私は、枕流亭や藩庁門などを見学して、ここが明治維新と深い関係がある場所なんだと分かってうれしかったです。山口県代表として、これからも全国に山口の魅力を発信していきたいです。

瀧野 私もアイドルとして名が残せるような人になりたいと思ってきました。今回ゆかりの場所を巡つて、明治維新に人生を捧げた偉人から大きな力をもらったような気がします。また明日から自信を持ってがんばれそうです。

松前 今、こうして僕らが生かされるちよるのは、多くの先人達の努力と苦勞のおかげなんじやと思ふ。そして、あの時代を生き抜いた人たちは、高い「志」を持っていたからこそ、困難なことにとぶつかってもそれを克服していったんじゃないかね。みんなも若い力で、山口の地から未来へ向かって羽ばたいてね。期待しちよるよ。

「志のリレー」——終わり——



山口市菜香亭の縁側で中庭を眺める3人

松前 確かにすごい。長州藩の代表として、彼らはその使命を全うするため、必死の思いで勉学に励んだんじゃないかね。
下尾 語学と言え、大村益次郎さんは外国語の勉強に熱心だったんですね？

松前 益次郎は得意の語学力を生かして、塾でオランダ語や医学を教えたり、兵学書の翻訳もしよったんよ。そして、次第に頭角を現していったんよ。
岩田 山口にはたくさん偉人がいたんですね。

松前 他にもたくさん偉人が山口の地から生まれたんじゃないけど、今日一日じゃ話し切れんけえ、またの機会に話そうね。それで、今日はいろんな所に行ったけど、ど

©STU **岩田陽菜 いわたひな (STU48)**
瀧野さんとともにSTU48で活躍中。昨年10月にはAKB48グループの17歳以下の選抜メンバーに選ばれた。

©STU **瀧野由美子 たきのゆみこ (STU48)**
瀬戸内7県を本拠地とするAKBグループ初の広域アイドルグループ。STU48として最初のオリジナル曲ではセンターを務める。

©AKS **下尾みう したおみう (AKB48 チーム 8)**
「会いに行くアイドル」として47都道府県の代表により結成されたチーム8の山口県代表。秋葉原を拠点に全国各地でライブを行っている。

今月の表紙は、志士の衣装を着た山口県出身のアイドルが、藩庁門の前にいる写真です。題字は本市在住の書家・山下絢子さんの書です。今年には明治維新の策源地である山口市を、市内外にアピールする絶好の機会。幕末・明治の志士たちがそうであったように、彼女たちも山口県を代表して全国で活躍されており、今回のご登場となりました。市政番組「このまちに愛たい」(ケーブルテレビで1月放送)では、住みます芸人・どさけんさんと3人が市内を巡りながら、明治維新策源地の魅力をお伝えしますので、そちらもご覧ください。

スペシャル対談

明治維新150年記念特集 「志のリレー」——終わり——

表紙の写真は？



イラスト：taeco

世間あまり知られていなかった大村益次郎を、一躍有名にしたのは、戊辰戦争のひとつ、上野戦争でした。上野戦争は、今の東京都上野で、長州藩、薩摩藩などを中心とした新政府軍と、旧幕府軍から結成された彰義隊との間で行われた戦いです。このとき益次郎は、江戸城で作戦指揮を任されていました。

朝7時頃から始まった戦いは、午後になっても良い報告がありません。味方がやきもきしている中、上野の方から猛火があがるのを見た益次郎は、「これで戦いは終わりました、われらの勝利です」と言いました。その直後、戦いに勝ったという知らせが入ったといわれています。

益次郎は、戦いをたつた1日で決着させ、終了時間、敵の逃げ道など、全てを予測していました。そしてこれ以降、益次郎は新政府の軍務の全てを任されるようになったのです。鑄銭司郷土館にある益次郎像（靖国神社にある像のレプリカ）は、この戦いの時の姿をモデルにしたもの。ちなみに、軍隊を洋式化した益次郎でしたが、当の本人は洋服を嫌い、常に和装だったそうですよ。



大村益次郎 その1

市政トピックス



ウェブサイトでも公開中

本市のまちづくりが 総務大臣表彰を受けました

11月20日、山口市が地方自治の進展および住民の福祉の増進に功績のあった自治体として総務大臣表彰を受けました。これまで本市が、地域課題を主体的に解決する拠点となる「地域交流センター」を設置し、やまぐち式協働によるまちづくりのもと、地域自治の強化や地域内分権を進めてきたことや、高次の都市機能が集積する「広域県央中核都市の創造」に取り組んできたことが高く評価されました。

問 職員課 ☎ 083・934・2727

秋穂二島で 空き家バンク制度スタート

二島定住促進委員会「住もう家」が中心となり、秋穂二島地域で空き家バンク制度が始まりました。「住もう家」は、秋穂二島地区連合自治会が行った二島地区まちづくりアンケートがきっかけとなって、地域の若い世代が積極的に関わって立ち上げた組織です。子育て世帯の移住を促進し、豊かな暮らしのできる地域を目指して、空き家バンク事業等を推進されます。この事業では、地域住民20人が定住サポーター

「全国S-Lサミット inやまぐち」を開催

11月23日から26日にかけて、山口線沿線においてS-L関連イベントが開催されました。これは、大型観光キャンペーン「幕末維新やまぐちステイネーションキャンペーン」の注目イベントとして行われたもので、S「やまぐち」号をけん引する機関車C57(貴婦人)、D51(デゴイチ)、C56(ポニー)等を目みようと、市内外から多くの方々が詰め掛けました。沿線主要駅では、地域の方々がおもてなしをされ、訪れた方々は、44年ぶりに山口線に復活したデゴイチの勇姿を楽しみました。



問 観光交流課 ☎ 083・934・2810

問 定住促進課 ☎ 083・934・4646

として選任され、空き家の調査や入居希望者の案内のほか、移住者と地域の橋渡し役を行うなど、地域ぐるみで移住・定住活動に取り組まれます。

山口県央 連携都市圏域の愛称募集

平成29年3月に7市町で形成した山口県央連携都市圏域では、互いに個性と魅力を高め合いながら交流や雇用を生み、あらゆる地域に定住できる圏域づくりに取り組んでいます。今後、さらなる事業推進を図るため、この圏域を全国にPRでき、圏域の皆さんに愛され親しんでいただけるような愛称を募集します。



- 応募期間 平成30年1月31日(水)まで
- 愛称の条件
 - ・親しみやすく、覚えやすいもの
 - ・自作の未発表のもので、他の著作物等を使ったり、真似をしていないものに限る
- 応募方法
 - ①愛称(ふりがな)、②愛称の意味・理由、③氏名(ふりがな)、④職業(学生は、学校名・学年)、⑤郵便番号・住所、⑥電話番号を記入の上、郵送、FAX、Eメールまたは応募用紙で応募してください。(1人3点まで)
- 選考方法・記念品

山口県央連携都市圏域愛称選考委員会において選考。採用された応募者1名に、圏域の特産品セットを贈呈します。ただし、同一作品の応募が多数あった場合は、抽選で受賞者1名を決定。また、応募者の中から抽選

- で10名に記念品(圏域の特産品)を贈呈します。
- 結果発表

平成30年3月中旬(予定)に、受賞者に直接通知するほか、圏域を構成する各市町のウェブサイトでご発表します。

※記念品当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。

※採用した愛称に関する諸権利は、事務局(山口市)に帰属するものとします。
- 応募・問い合わせ先

山口市総合政策部企画経営課「愛称募集係」
〒753-8650 山口市亀山町2番1号
☎ 083-934-2747 FAX 083-934-2642
✉ kikaku@city.yamaguchi.lg.jp



詳細や応募用紙はウェブサイトから

防府 冬の幸せますフェスタ 第13回鍋-1グランプリ

各参加団体がオリジナル鍋を調理・販売し、来場者の投票によりグランプリを決定します。

- 日時 1月28日(日) 11時~14時
- 場所 天神町銀座商店街・ルルスス防府
- 料金 1杯300円程度
- 審査方法 来場者による箸投票、箸票箱の重さによりグランプリを決定します。

問 天神ピア・まちづくり防府 ☎ 0835-22-4930 (火曜定休)



宇部 柳家喬太郎独演会

古典落語・自作の新作落語のどちらも得意とする落語界の奇才が宇部市で初公演します。

- 日時 2月18日(日) 15時30分から
- 場所 宇部市文化会館(宇部市朝日町8-1)
- チケット代 一般3,500円、財団友の会3,000円、大学生以下2,000円(当日券各500円高)
- プレイガイド 宇部市文化会館、宇部井筒屋ほか

問 宇部市文化創造財団 ☎ 0836-35-3355

山口 幕末維新150年 やまぐち幕末ISHIN祭

幕末維新をテーマとした山口県の観光キャンペーン「やまぐち幕末ISHIN祭」では、県内を自由に周遊できる「おいでませパスポート」を無料で発行しています。パスポートを持って、指定の観光地や宿泊施設、カフェなどを巡ると、料金割引や1品サービスなどのおもてなしが受けられ、さらにスタンプを集めると特産品などが当たる特典もあります。

山口市の歴史を学べる歴史民俗資料館や小郡文化資料館、鑄銭司郷土館では、パスポートを提示された方にもれなく記念品をプレゼント！明治維新150年の特別キャンペーンで山口市や県内の魅力を満喫しませんか。

問 山口県観光プロジェクト推進室 ☎ 083-933-3170

1月から、特別なプレゼントキャンペーンも実施！



「おいでませパスポート」



パスポートの取得方法やスポットはこちらからご確認ください。



新山口駅北地区拠点施設整備

山口県ナンバーワンのビジネス街の形成を目指して

新山口駅北地区拠点施設の整備が本格的にスタートします。最大2千席の収容能力を有する多目的ホールをはじめ、起業創業・中小企業支援センターやメディカルフィットネス等、多様な機能を導入する予定で、各機能が連携し、効果を発揮することで、良好な市街地形成や高次都市機能の集積を促進し、「山口県ナンバーワン」のビジネス街の形成を目指します。

そして、新山口駅北口駅前広場はいよいよ3月22日(木)にオープンします。市・県の陸の玄関として、交通結節機能の強化、利便性の向上に加え、観光交流センターなどによる、情報発信機能を活用した魅力あふれる駅空間が生まれます。

新山口駅北地区拠点施設整備スケジュール

平成29年度 基本設計

平成30年度 実施設計、建設工事

平成31年度 建設工事

平成32年度 施設完成、供用開始

平成32年度 供用開始

アクセス道路

新山口駅北口駅前広場と山口宇部道路の長谷ICを結ぶ道路として整備します。

起業創業・中小企業支援センター

起業創業を戦略的に支援する相談窓口、起業創業者のための貸しオフィス（インキュベートルーム）や会員制オフィスとして利用可能な貸しオフィス（コワーキングスペース）等を併設します。起業創業に関する支援や中小企業の経営相談等、実践的なビジネス支援を行います。

メディカルフィットネス

市民の皆さんの健康増進等を目的としたフィットネスや、地域医療と連携し、それぞれの体力や健康状態に即した運動プログラムを提供します。それらの実践データを、健康関連産業等の分野で活用し、新たな産業の創出や集積を促進します。

交流目的シェアハウス

地元大学や企業等と連携した人材育成施設です。地域経済の発展に貢献する人材を育てるための各種プログラムを提供します。

環境配慮住宅（民間施設）

誘致企業で働く人や、ふるさと山口への回帰を望む人たちの住まいの受け皿となる住宅です。交流目的シェアハウスとの人的交流等も行います。

立体駐車場

公共施設利用者のための立体駐車場として400台程度を整備します。重点エリア全体のまちづくりを促進する観点から、重点エリア全体のセンターパーキングとしての機能も発揮します。

新山口駅北口駅前広場
(3月22日(木)オープン)

バスロータリー

4/1(日) 運行開始

路線バスを集約。6つの乗り場と2つの降り場で構成しており、方面別の運行により乗継の利便性が向上します。

一般車・タクシー乗降場および駐車場

南北自由通路

立体駐車場

多目的ホール

起業創業・中小企業支援センター

メディカルフィットネス

交流目的シェアハウス

環境配慮住宅

多目的ホール

多種多様なイベントに対応可能
最大収容 2,000 席のホールです。可動席とすることで、コンベンション、展示会、講演会のほか、音楽、演劇、演芸等、幅広いイベントに対応できます。

次世代型イベントに対応可能
情報通信ネットワークや、臨場感のある音響映像システムを導入し、パブリックビューイング、ライブビューイング、セミナー等の同時中継会場としても活用できます。

コンパクトな利用にも対応可能
合唱、吹奏楽、ダンス、ピアノなどの発表会のようなイベント会場として、市民の皆さんにも利用していただけます。

問い合わせ

新山口駅拠点施設整備推進室
☎083193412676

新山口駅ターミナルパーク整備課
☎083193412937

1月 2月

イベントカレンダー

1/1 (月・祝)

初日にちかう会・文殊岳
集合場所 文殊岳登山入口広場
☎ ゆたかな串を育てる会
☎ 0835-54-0776

新春体力づくり鴻の峰登山
集合場所 木戸神社
☎ スポーツ交流課
☎ 083-934-2912

元日登山・雨乞山
集合場所 小郡地域交流センター
☎ 小郡地域交流センター
☎ 083-973-0638

1/7 (日)

成人式
会場 市民会館
☎ 社会教育課 ☎ 083-934-2865

消防出初式
会場 山口南総合センター
☎ 消防本部警防課
☎ 083-932-2202



1/14 (日)

市駅伝競走大会
会場 山口きらら博記念公園
☎ スポーツ交流課
☎ 083-934-2912

1/20 (土)

ニューイヤーバンドフェスティバル
会場 市民会館
☎ 市民会館 ☎ 083-923-1000

1/23 (火) ~ 3/13 (火)

企画展「自由律俳句誌『層雲』と山頭火」
会場 小郡文化資料館
☎ 小郡文化資料館
☎ 083-973-7071

1/27 (土) ~ 2/4 (日)

やまぐち新進アーティスト大賞
ノミネート作品展
会場 クリエイティブ・スペース
赤れんが
☎ 文化交流課
☎ 083-934-2717

1/28 (日)

あとう雪まつり
会場 十種ヶ峰スキー場
☎ 阿東地域交流センター
☎ 083-956-0116

2/12 (月・祝)

市民クロスカントリー大会
会場 山口県セミナーパーク
☎ スポーツ交流課
☎ 083-934-2875

開催中のイベント

3/4 (日) まで

企画展「れきみんモノがたり『四季めぐる山口』」
会場 歴史民俗資料館
☎ 歴史民俗資料館
☎ 083-924-7001

おとうさん、おかあさんといっしょ

世界最大！山口餅まき維新【白石】

山口の名物「餅まき」。その世界記録に挑戦するイベントが、1月8日(月・祝)に、亀山公園ふれあい広場で開催されます。会場では、小さなお子さんに大人気のレノ丸ふわふわドームや、お母さん必見のおもちレシピの紹介、おいしい飲食ブースなど、大人から子どもまで楽しめるイベントが盛りだくさんです。なお、雨天時は、どうもん広場・NAC前でチケット入場制の餅まきとなります。

☎ 山口商工会議所青年部 ☎ 083-925-2300



3人も食べた「ポルポロン」をお年玉プレゼントします！

特集でご協力いただいた3人は、ケーブルテレビ「このまちに愛たい」(1月放送)にも出演中です。番組の中で3人が食べているスペインの伝統的なお菓子「ポルポロン」を抽選で3名様にプレゼントします。希望される方はハガキで、①〒住所、②氏名、③年齢、④「市報やまぐち1月1日号」と「このまちに愛たい(1月放送)」の感想を記入の上「ポルポロン希望」と書き添えて、1月31日(水・消印有効)までにご応募ください。なお、当選は発送をもってかえさせていただきます。当選者には2月上旬発送予定です。

応募先 〒753-8650 山口市亀山町2-1 広報広聴課宛て



瀧野由美子さん 岩田陽菜さん 下尾みうさん

この広報紙は再生紙を使用しています。使い終わったら、「新聞紙」として古紙類の分別収集に出しましょう。

「市報やまぐち」はアプリでも配信しています。



市報やまぐち 1月1日号
発行 山口市 〒753-8650 山口市亀山町2-1 <http://www.city.yamaguchi.lg.jp>
編集 総合政策部広報広聴課 ☎ 083-922-4111 (代表) / 印刷 株式会社マルニ